

銀賞

もどつてくる水

安松 桜雫

小郡市立大原小学校

わたしは、宝満川浄化センターに見学に行き、これまで思っていたことが大きく変わるような事実を知りました。

その一つは、水はじゅんかんしているということや、その中で浄化センターが大きなはたらきをしているということを知ったことです。これまで、わたしは、使った水はそのまま川や海に流れると思っていたのでいました。けれどこの見学を終えて分かったことがありました。それは、川や海にそのまま流れるのではなく、宝満川浄化センターが水をきれいにしてくれていたことです。浄化センターできれいにして川や海に流せるようにしているというおどろきを感じました。

二つ目は、水をきれいにする仕事はとても大へんだということですね。例えば「牛乳」だと、お風呂十ばい分です。流さないといけません。浄化センターで働いている方々に、「牛乳」のことと、「みそしる」のことを教えてもらいました。そのときわたしは、

「えっ、そうなんですか。」
と思わずおどろいてしまいました。水を完ぺきにきれいにするには、約二十時間もかかるそうです。

浄化センターでは、水をきれいにするために、「活性おでい」という「び生物」を利用して水をきれいにしているそうです。「活性おでい」の弱点は、油と野菜の切りくずなどだそうです。キッチンから油

や野菜の切りくずなどを流してしまうと、弱点のある「活性おでい」は、はたらかなくなってしまうそうです。これまでは、牛乳や野菜の切りくずなど少し流しても、そんなことを知らなかったから、「別に、流しても、もどつてこないから」と思っていました。見学の時に、あらためて言われたことがありました。それは、キッチンに、油や野菜の切りくずなどを流さないということです。これからは、「活性おでい」がはたらいってくれるように、自分でできることは何かを考えて行動したいと思いました。

このように、わたしは、思いこんでいたことが新しく変わったし、これからも、どうすればいいのかも分かったし、本当に本当に自分の考えが変わりました。浄化センターで働いている方々は、見学の時、わたしたちに分かりやすく説明してくれたから、これまで思っていたことを大きく変えることができた気がします。使った水は、またわたしたちのところへもどつて来ることが分かりました。見学で学んだことをわすれず生かし、これからの生活にも役立つように行動したいと思いました。